

令和5年2月21日

令和4年度大田区青少年問題協議会
(第3回)

令和5年2月21日

午後2時00分開会

○今岡地域力推進部長 本日は、お忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。令和4年度第3回の青少年問題協議会を開催させていただきます。

進行させていただきます、地域力推進部長の今岡でございます。よろしくお願いいたします。

この協議会は、公開原則に則りまして、傍聴制度を導入しており、区ホームページにて本会議録の公開を予定しております。

早速、開会にあたりまして、本協議会の会長であります、松原区長よりご挨拶をお願いいたします。

○松原会長 どうも皆さん、こんにちは。本日は、ご多用のところご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。委員の皆様には、日頃より大田区の青少年健全育成にご尽力を賜り、深く感謝を申し上げます。

2月も後半に入り、梅の花も咲き始め、寒さの中にも春の足音が聞こえてくるような季節となってまいりました。

国は、先日、感染症法上の位置づけを5月8日に、季節性インフルエンザなどと同じ5類に移行する方針を決定いたしました。特例を設ける、あるいは段階的に移行するなど、様々な意見が出ておりましたが、実現すればウィズコロナに向け、社会が大きく動き出すこととなります。

こうした社会情勢の変動等を総合的に勘案し、区は、先日、令和5年度のガーデンパーティーを開催するというごことで、お知らせさせていただきました。

青少年対策地区委員会の皆様をはじめ、関係機関の皆様と連携しながら、感染対策を徹底し、開催に向け準備を進めてまいります。

皆様も健康にご留意された上で、引き続き青少年の健全育成にお力添えを賜りますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。

本日は、午後1時から2時まで、第2回子ども・若者支援地域協議会代表者会議を実施し、委員の皆様より多くのご意見をいただきました。

いただいたご意見等に基づきながら、関係機関の皆様と連携し、引き続き子ども・若者に対する相談支援の強化に取り組んでまいります。

令和2年度より、本協議会では大田区子ども・若者計画の策定とあわせて、「困難

を有する子ども・若者やその家族に対する切れ目のない支援及び地域ネットワークの強化」について委員の皆様にご審議をいただいております。

審議の中でいただきました皆様からのご意見等を基に、本計画を策定し、昨年10月には、「大田区若者サポートセンター フラットおおた」を開設いたしました。

子ども・若者が気軽に立ち寄り、相談ができ、自由に過ごせる第三の居場所として、開設後、大変多くの方にご利用いただいております。

青少年の成長にとって必要とされる、人との交流や地域社会との関わりを促し、様々な体験を通じた自己肯定感を醸成する居場所、適切な支援につなぐ場所として、本センターを活用し、関係機関の皆様と連携しながら、さらなる青少年の健全育成に取り組んでまいります。

本日は、今年度最後の協議会となります。年間テーマとしております、「ポストコロナ社会における子ども・若者施策の今後の方向性」について、ぜひ委員の皆様で審議をいただき、大田区における、今後の子ども・若者施策に反映してまいりたいと存じます。

全ての子ども・若者が健やかに育つための支援の在り方やその方向性について、さらなる検討を進めていくため、引き続きご協力をお願いいたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。

以上です。

○今岡地域力推進部長 松原区長、ありがとうございました。

それでは、お手元に配付いたしました資料のご確認をお願いいたします。

まず、本日の次第

資料1、青少年問題協議会の委員名簿

資料2、第2回の青少年問題協議会の議事要旨

資料3-1、子ども・若者支援地域協議会の代表者会議次第

資料3-2、若者サポートセンター「フラットおおた」開設後の概況

以上となります。

それでは、委員のご紹介に入らせていただきますが、お手元の資料1の名簿をご覧ください。本来であれば、お一人お一人をご紹介させていただくところですが、感染症対策及び会議の簡略化のために、大変恐縮ですが、資料1の名簿にて替えさせていただきます。

なお、大田区民生委員・児童委員連絡協議会の会長におかれましては、12月の一斉改選に伴い、前任の吉田会長から常安会長に変更となっております。また、常安会長は、本日オンラインにてご参加をいただいております。

それから、オンラインで参加いただいている方ですが、この名簿をご覧くださいまして、13番の区立小学校PTA連絡協議会の清家会長様もオンラインで参加をいただいております。

ご欠席の方についてですが、名簿の14番、区立中学校PTA協議会会長の須山様、17番、大田区母の会連合会長の大沼様、21番、田園調布警察署長代理の生活安全課長の中島様につきましては、ご欠席でございます。

それでは、議事に入ります。ここからは座長をお願いしております永井委員にお願いしたいと存じます。永井先生、よろしくお願いいたします。

○永井座長 永井でございます。よろしくお願いいたします。

初めに3点、前回の本協議会での審議内容、それから、先ほどの会場で開催されました今年度第2回の大田区子ども・若者支援地域協議会代表者会議の報告、それと、大田区若者サポートセンター「フラットおおた」開設後の概況、この3点について、青少年健全育成担当課長からご報告をお願いしたいと思います。

○佐藤青少年健全育成担当長 青少年健全育成担当課長、佐藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

お手元の資料2番をご覧ください。前回の青少年問題協議会におきましての議事の要旨でございます。

昨年11月14日に実施させていただきました、第2回の本協議会の要旨でございますけれども、各団体の活動報告をいただきました。

自治会連合会、民生委員・児童委員連絡協議会、また保護司会、青少対の会長会、青少年委員会の会長、皆様方より各団体の活動のご報告を賜りました。

その後、審議といたしまして、年間テーマに沿いまして皆様方からご意見を頂戴したところでございます。

ご意見の抜粋でございますが、資料に書かせていただいているところでございます。コロナにおきまして、困難な状況にありながらも、何とか活性化していくことが地域全体の活性化につながるというところで、皆様方からご意見を賜りました。

保護司会の会長からは、接点のある若者に対しては手を差し伸べていくことはでき

るが、そういったところに来られない人たちにどう周知していくかが課題であると提起がなされたところでございます。

また、曾田弁護士からは、結局は家族の問題であるということで、家庭への支援、そういった方向性が非常に重要ではないかということでご意見を賜りました。

また、日本工学院の野田参与からは、通信制高校の生徒が多いということに非常に驚いたというところでございまして、フラットおおたにいらっしゃる方々、こういった若者にどのようなアドバイスをされているのか、次回の会議で教えてもらいたいといったご意見を賜りました。

こちらにつきまして、先ほどフラットおおたの桜庭センター長にも確認をさせていただきましたけれども、現在、通信制高校の生徒なども多く通っていらっしゃるところでございますが、様々なバックグラウンドがある若者に対して、どのようなアプローチをしているかというところでございますけれども、フラットおおたにまず来ていただくことが重要であるといったこともございまして、「〇〇しに来ない？」とか、意欲が喚起できるようなプログラムを企画しながら、フラットおおたにまず来ていただく、また興味のある話題を会話の中で行っていくといったところで、少しずつフラットおおたに来ていただくことを最初のファーストステップとしながら、次に進めていけるようなアプローチをしていると伺っております。

前回の青少年問題協議会の議事要旨につきましては、以上でございます。

続きまして、資料2としまして、前回の会議でご協力いただきましたアンケートの結果を抜粋しております。

こちらもご覧いただいたとおりでございますけれども、特にいただいたご意見の中では、子ども食堂や地域イベントに関わっていらっしゃる方々、そういった方々が思うこととして、嫌みなくひっそりとでも、支援の資料や区報などを忍ばせるなどして、少しずつ広報していくことでじわじわと広がっていくのではないかというご意見をいただいております。

そういった意味では、地域の皆様方との連携を深めていきながら、地道でも広報宣伝していくことが重要であるというところでご意見を賜っております。

また、各支援機関との連携強化につきましても、今後、この若者サポートセンターフラットおおたの設立というものが大きな進展でございまして、こちらを今後、未来への希望につなげていきたいといったご意見を賜っております。

前回の協議会におきましてのご報告は以上でございます。

続きまして、資料3-1をご覧くださいと思います。

先ほど開催いたしました子ども・若者支援地域協議会 代表者会議の様子につきまして、ご報告を申し上げたいと思います。

先ほど、1時間といった短い時間ではございましたが、代表者会議を開かせていただきまして、フラットおおた開設後の利用実績、また実務者会議の様子などご報告をさせていただきました。

資料3-2をご覧くださいと思います。

フラットおおた事業開設後の状況でございますが、こちら事業スキームにつきましては、以前、こちらで皆様方に配付をさせていただきましたので割愛し、次のページをご覧くださいと思います。

昨年10月31日に開設いたしましたからの、おおむね3か月間の状況でございます。こちらに通われている皆様方、延べ相談件数でございますが、およそ357件と出ております。

その中でも、チャット相談が111件ということで、およそ3割の方々にチャットでご利用いただいているといったところでございます。

また、居場所での延べ利用人数でございますが、406人ということで、非常に多くの方にご利用をいただいております。

次のページをご覧くださいと思いますが、年代別でございます。10代と20代を合わせますと、およそ7割の方になります。

また、相談方法は、チャットでの相談が31.1%と、来相談の次に割合を占めておりまして、チャットを活用されてご相談されている方が多いといったところでございます。

相談者の状況②をご覧くださいますと、地域別では、大森地域48.1%、調布地域が17.3%、蒲田地域が15.4%、糀谷・羽田地域が9.6%、大田区以外が9.6%となっております。

また、相談内容でございますが、1番に、仕事や働くことについての悩み、その次にございますのが人間関係やコミュニケーションについての悩みといったところでございます。

来所の経緯につきましては、関係機関からの紹介が32.7%ということで、こち

らの関係機関の中には、生活再建・就労サポートセンターJOBOTA、また、ひきこもり支援室SAPOTAとの連携、また、地域における医療機関からのご紹介や、また、区の保健師からの紹介など、様々な関係機関の皆様方からつないでいただいているケースが多いといったところでございます。

今後も引き続き、関係機関との連携を強化してまいりたい所存でございます。

続きまして、フラットおおたの出張説明会・ミニ相談会のチラシをご覧くださいければと思います。

大森地域の皆様方の利用が非常に多いといったところを受けまして、ほかの地域におきましても、ぜひともフラットおおたを知っていただきたいと、このたび六郷、池上、馬込、田園調布の皆様を対象に出張型で説明会・相談会を実施させていただきたいと思っております。

この日には、ゲスト紹介といたしまして、かつて不登校を経験なさった方で、現在はプログラマーとして就職されている方、様々そういった困難を経験されながらも現在は就労等、自立されているといった方々に来ていただきまして、リアルな声といった形でお話を聞く機会を設定させていただいております。

もしお時間がございましたら、ご参加いただければ幸いです。

続きまして、オンラインセミナーのチラシも配付をさせていただいております。

本区におきましては、内閣府より令和3年度・4年度、両年度にわたりまして強化指定を受けながら支援をいただきまして、このたび子ども・若者の総合相談センターの開設に結びついたところでございます。

こちらの事業の一環といたしまして、子ども・若者支援と就職氷河期世代の支援の連携に関するセミナーを実施させていただきたいと考えております。

こちらのセミナーでございますが、オンラインでの配信のみとさせていただく予定でございます。動画の配信の時期でございますが、2月28日から3月31日の間、動画で配信をさせていただく予定でございます。墓田 薫先生に来ていただいて、講演を事例収録したものを配信させていただく予定でございます。

特に、就職氷河期と言われる40歳前後の皆様方、40歳以降の方々と子ども・若者の支援と言われるおおむね39歳までの支援、両方の支援を連携させていくことが重要であると言われておりまして、そういった意味で、ぜひとも支援に従事される職員の皆様方、また関係する皆様方には、ご視聴いただきたいと思っております。

こちらの報告につきましては、以上でございます。

○永井座長 ありがとうございます。

ただいまのご報告に関して、委員の皆様からご質問、ご意見等、何かあればぜひご発言いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

それでは、質問と審議も重なっていくところもございますので、審議に入らせていただきます。

今年度のテーマは、次第にありますとおり、「ポストコロナ社会における子ども・若者施策の今後の方向性～切れ目のない支援と地域ネットワークの強化～」です。

それでは、ここでこのテーマについての審議をお願いしたいと思います。

今年度のテーマにつきまして、何かご意見等あれば、ご自由に発言をお願いしたいと思いますのですが、いかがでしょうか。

公募委員のお二人も、今日もご出席いただいているので、ぜひご発言いただけたらと思うのですが。

○東使委員 東使と申します。よろしくお願ひいたします。

テーマの前に、今回の先ほど説明いただいた資料についての質問になってしまうんですけども、幾つか思った点があるので、ちょっと伝えさせていただくと、まず1点目に、このチラシには、LINEの公式アカウントのQRコードが入っていると思うんですけど、ここには、インスタグラムのQRコードは入っていないというところで、大体こういうのはQRコードで開くことが多分多いと思うので、QRコードを入れたほうがいいなと思ったのと。

あと、実際にLINEとインスタグラムを見ているんですけど、LINEの投稿頻度のほうが全然多くて、これは肌感でしかないんですけど、多分若者は、インスタを使っている方のほうが多いのではないかと考えているのですが、インスタの投稿は全然されていないというのがあります。

まず単純にインスタの投稿数をもっと増やしたほうがいいなと思いますし、あと、その工数が割けないとしても、LINEで投稿しているものをそのままインスタに投稿することは結構簡単にできると思うので、最低でもその辺、されたほうがいいかなと思いました。

たまにストーリーとかも上がると思うんですけど、それもまとまっていないので、せっかくこれまでやってきたイベントとか、そういった情報がただただ流れてしまっ

て、これから来ようとしている新しい人には、どういうことをやっているのかが、インスタだと分からないという状況があると思うので、できる限り毎日投稿とかされたほうが、「ああ、こういうことをやっているんだな」というのが分かって行きやすいかなと思いました。やっぱり若者はSNSから見つけることがおそらく多いかなと思うので、インスタの発信はしたほうがいいかなと思います。

あと、UI/UXみたいなところで言うと、やっぱり投稿内容が何か推したいなと思うような投稿じゃないことというのがありまして、大体、若者向けのサービスだとそういうところ、サムネイルだとかにこだわっていると思うんですけど、具体的にそこを押したら何が分かるのかというのが、1ページ目から分かるような発信の方法をしたほうがいいかなと思います。やっぱり見るのは若者だと思うので、そこは若者に刺さるような形でインスタとLINEをやられるといいかなと思いました。

あと、チャットも、区がやっているということもあって、チャットするまでに押すボタンがすごい多いんですよ。なので、ハードルがすごい上がっていて、まずホームページを開かなきゃいけないくて、そこからチャットボタンを押して、そこから「個人情報の同意」を押さなきゃいけないくて、大田区のホームページもそうだと思うんですけど、そこから飛ぶのがすごい重い。「よし相談しよう」と思ったときに、一々個人情報の同意とか必要だと思うんですけど、ちょっと難しい部分もあって、可能であればインスタとかだったらDMで簡単にできるとかになれば、もっと相談しやすくなるかなとは思いました。

あと、資料3-2のところなんですけど、相談者の状況①②のところ、年代別と相談内容が書かれているかと思うんですけど、僕個人として気になったところでいくと、相談者の状況②では、「仕事や働くことについて」が一番相談内容として多いという話があると思うんですけど、ここを具体的に仕事や働くことについて、どういう相談があるのかというのを深掘っていくことがやっぱり一番大事だなと思いますし、そこに対して具体的にどんなことに分けられるのかというのを、ぜひ知りたいなと思いました。

それを分析していく上で、どういうコンテンツが適しているかというのが出てくると思うんですけど、現状、今後のイベントのゲストは、全部就職に関するゲスト、就職支援ということになっているので、ほかの内容がいいと思ったりとか、このイベントには参加してこないと想定されると思うので、その上では相談内容が、ただ年代別

によって異なっているなと思います。

「進学や勉強について」の悩みは、きっと大学生までの人かなと思いますし、なので、その辺が年代別で、相談内容を分けられて分析された結果を、ぜひご紹介いただきたいなと思いました。

以上です。

○永井座長 どうもありがとうございました。

今の点はいかがでしょう。

○佐藤青少年健全育成担当長 貴重なご意見ありがとうございました。

特にインスタは、若者に非常に支持されているツールでございますので、インスタの投稿を今後、もうちょっと強化してまいりたいというふうに思っております。

ご意見いただきましたものを反映しながら、さらにいい内容にしていきたいと思っております。

また、チャットまでのボタンが多いというご指摘でございますけれども、大変、ご指摘の内容は分かるわけなんですけれども、個人情報の同意といったものがどうしても必要になってきてしまうので、そこは押していただかなければいけないところでございますけれども、チャットのほかに、今年度中には入れていこうと思っておりますが、オンラインでの相談もこれから始めていこうと思っております、例えばWebexを使った、パソコンで相談ができるような形も、これから配備していこうと思っておりますので、少し選択肢を広げていながら、相談のしやすい形にこれからはしていきたいと思っております。

先ほどご指摘いただきました年代別の相談内容でございますけれども、実は代表者会議では、10代、20代、30代のそれぞれのケースについて、一部抜粋という形で、来所の状況であったり、対応状況を詳細にわたって共有をさせていただいているんですけれども、いかんせん個人情報に関わる部分もございまして、詳細にわたってのご報告は、今回ここではちょっとできないところでございますけれども、ご指摘いただきましたように、それぞれの年代別で傾向はございますし、それぞれ就労に関する悩みといっても、細分化した形で具体的にいろいろとあるわけなので、そちらを分析しながら、そちらに則すような形での居場所プログラムといったものをこれからはやっていきたいと思っております。

こちらについては、また改めてこちらの青少年問題協議会の中で、ご報告をさせて

いただきたいと思っております。

○永井座長 次回以降にも生かせるご質問だったと思いますので、よろしくお願いいたします。

もう一人、村尾委員はいかがでしょうか。

○村尾委員 よろしく申し上げます。村尾と申します。

私は、フラットおおたの施策については、あんまりよく分かっていないので、ここでずっと思っていたところをちょっと言ってみようと思うんですけど、協議会が対象にしている若者ですかね、ひきこもりの子とかだと思うんですけど、そういう属性の子のリアルの声を聞いてみたいなと思っていて、だから、来てくれるか分からないですが、どういうところに困っているかをこの協議会で発言してもらおうとか、あと、この協議会のメンバーとして5人とか10人とか、参加してくれる子に参加してもらうことがいいかなと思っていて、自分も一応、ひきこもりをちょっと経験したということで、ここに座っているのですけれども、言っても自分の頃はSNSとかも、まだ出始めだったので、自分自身は結構SNSとかの依存症で、その中でひきこもりのほかの子と仲良くなったりとか、そういうことがあったんですけど、今はそういうSNSといっても、悪い人がいて、そういうひきこもりの子を誘って、性犯罪につなげたりとか、そういうのは昔はなかったんでSNSの関わり方とかも、今の子とは自分の頃と違って、今の状況は分からないなと思っ。今のひきこもりの子たちの悩みとか、実際、家で何しているとか、ネットとどういふうに関わっているかというのが分からないと思っ、そこをちょっと聞きたいと思っ、それでそういうリアルな声を聞ける機会をこの会議とかで持てたらいいかなと感じておりました。

以上です。

○永井座長 ありがとうございます。

ぜひ、そういう機会が必要だと思っ、ただ、今日、ご出席の方も皆さんそれぞれの立場からは、いろんな問題に具体的に関わってくださっているという方ばかりなのではと思っ、それではいかがでしょう、何かそのほかのご質問、ご意見等、いかがでしょうか。

連携ということと言っ、大森少年センターの所長もおいでくださっていますけど、フラットおおたとの連携の可能性というのは、具体的に考えられるでしょうか。

あるいは、それを進めていく上で、こういうことが課題になるのかなというふう

お感じになっているのだとか、一般的なお話で結構なんですけど、いかがでしょうか。

○黛委員 大森少年センターの黛と申します。よろしくお願ひいたします。

既に座長から、今、ご指摘いただきました連携という点におきましては、フラットおおたに私どもの職員が訪問させていただきまして、具体的な突っ込んだ意見交換を実施させていただいたところでございます。

これによりまして、職員相互の間で顔と顔の見える関係もつくらせていただいたところでございます。

現在、当センターにおきまして、相談対応に当たる心理職の職員に対しましては、フラットおおたの存在を念頭に置いて、相談対応に当たらせるように指示をしております。

今後、恐らくこうした取組の中において、今後、個別具体的に子どもたちに対して、フラットおおたと連携した対応が必要なケースというのが必ず生じてくると考えているところでございます。

その際には、私どももしっかりと連携をしながら、対応に当たっていきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○永井座長 ありがとうございます。

それでは、この辺りのこと、あるいは再犯防止ということで言うと、保護司会はいかがでしょう。何か、フラットおおたのようなものとの連携の可能性ということも含めて、ありましたらぜひお話しただけたらと思ひますが。

○海老澤委員 保護司会会長の海老澤信吉です。

平成10年をピークに犯罪者というのはずっと減ってきているんですけども、このところちょっと減り方が鈍くなってきたといひますか、その中で再犯者がなかなか減らないという問題があるんですけども。

いわゆる非行少年というのは、このところ大分少なくなっておりまして、ただこれもなかなかゼロにならない。

大体、家庭に問題があるというのがあったんですけども、でも、このフラットおおたが、こういうのがあると本当に頼もしい。我々も一生懸命やるんですけども、ここでこういうのをやっているんだということが、大きな力になるかなと思ひております。

なかなか若者としゃべる機会というのがあるようで、我々には意外とないものから、そういう意味で大変これはいい施設になってきたなという思いであります。

以上です。

○永井座長 ありがとうございます。

いろいろお話をしていただいているのですが、何かそのほかに、これに関連してどうでしょうか。話題提供でも結構ですし、ご質問でも結構ですが、いかがでしょうか。

○末安委員 私も、当事者の若者の皆さんの声について、この場に来ていただくというのは、また大変だと思いますので、それこそオンライン等々で、こうした場でお話しいただくよりもオンラインのほうが話しやすいというのもありますので、そうしたことは、ぜひこれからやっていただきたいなと要望をしておきたいと思います。

せっかくフラットおおたができましたので、これからぜひ活躍の場とか、何か自己肯定感を高めるという意味でも、いろいろと地域でやっている情報をここに集めていくということも、これから大事じゃないかなと思っていまして、例えば地域で餅つきをやるんで餅つきの担ぎ手になってほしいとか、そうした小さいことからいろんな情報がここに集まって、来所された方にひょっとしたら、「こんなことをやってみない？」みたいな声掛けをすることにつながっていくといいのかなという意味では、情報センター機能というような役割も、仕事とかにすぐつなげていけることも大事だと思うんですけども、日頃のボランティアであったり、子ども食堂に「ちょっとお手伝いに来て」とか、いろんな可能性があると思いますので、そうしたことをこれから集めていくことというのは重要なこととおっておりますので、ご意見として挙げさせていただきます。

○永井座長 ありがとうございます。

情報センター的な機能といいますかね、そういうものが需要というご指摘だと思いますが、ほかにはいかがでしょうか。

○野田委員 日本工学院の野田です。

まず、我々教育機関にとってコロナというのは非常に大きな障害でした。だんだんそれが薄らいでいって、実は2月にスポーツ実習で、やっとスキーに学生を引率することができるようになりました。

ほとんどの学生ではなくて、ごく一部の学生ですけども、教員が感染症対策を取りながら、スポーツの実習で新潟のほうに、3日間連れていくというのがやっとできま

した。

それから、それに行けない学生には多摩川の河川敷でサッカーをやろうと、これもまた教員が引率しながらやるというように、やっと脱コロナというか、ウィズコロナに向けて若者と一緒に行動するということができて、これから喜びが増えてくるんじゃないかなと思っています。

先ほど、フラットおおたのことなんですけど、いろいろデータを出していただきまして、まず成功していると思います。というのは、これだけの実績があるということと、それから来所者が増えているということ、そしてチャットBOTを3分の1も利用しているということで、チャットBOTの中身も私、実は興味がありまして、どういうところから入り口があって、どういうふうにして来所につなげていくかというのは非常に興味があるので、もし今度、お時間があつたら、どんなことをやっているのかなというのを教えていただければと思います。

それから、SNSに関してなんですけども、これも確かに私たちの学校は若者との接点が非常に少ないので、こういう情報というのは取り入れていっていただきたいということと。

それから、フラットおおたのほうで専門家と話すというようなコーナーがあるということですが、例えば専門家を探して誰かとそこでイベントを行うというような手もありますけども、ただ、テーマを与えて、それに付随する人たちに来てもらうとか。

例えばアニメが好きな人は何日に集合しようとか、それは一人、二人でもいいと思うんですけども、そういうふうな、いわゆる専門家じゃないイベントですね、そういうのもやっていくと面白いんじゃないかなと思います。

また、アニメでなくても、声優でもいいと思います。そういうふうに、若者が非常に興味を持つ、そういうものを企画していくと、これからどんどん盛り上がっていくような、そんな気がしてならないところでございます。

以上です。

○永井座長 ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょう。

○榊中委員 青少年委員会の榊中でございます。

私たち青少年委員会では、若者のいろんな発表の場、発露の場ということで、若者の文化祭としてOh!!盛祭をやらせていただいておりますけれども、その中でもこう

いったフラットおたにいらっしゃられる、こういった若者たち、ひきこもりだった人たちが一歩社会に出るためのきっかけをここで得ていただきたいと思うんですが、こういったところで先ほど工学院の方からもありました、友達づくりなどということができて何か発表したいということがあれば、私たちがやっているいろんなイベントを通して、そういう発表の場というものを提供していきたいなというようなことを考えています。

今回も佐藤課長とそういう話もさせていただいておまして、実際、会長から声をかけさせていただいたんですけど、なかなかまだここに来ている子たちというのは、そのときの気分の上下がいろいろありますので、なかなか難しいところはあるんですが、引き続き、そういった取組はしていきたいなと思っているところです。

それで、1点、多分集計はされていらっしゃるんだと思うんですけども、来所者が増えているといったところは分かるんですが、実際の実人数はどうなんだと。要するに、頻繁に毎日来ている人がどれぐらいいるのかだとか、1回来ただけでその後は全然来ていないだとか、来所頻度の分布というのが分かれば、先ほど工学院の方のお話にもありましたけど、何か手を差し伸べるときにも、そんな頻度で来ているのであればこういうことができるのではないかとか、また新たな取組が見えてくるのではないかと考えておりますので、そういったところをぜひ情報共有していただければと思います。

以上でございます。

○永井座長 ありがとうございます。

今の点、いかがですかね。実人数という点では。

○佐藤青少年健全育成担当長 相談の皆様方でリピーターといいますか、2回以上いらっしゃっている方につきましてはの人数です。まず新規登録というのがありまして、相談に来て登録をすると居場所が使えるという流れなんですけれども、登録をしている実人数は、今現在52人です。

そのうちのリピーターが51.9%ございまして、これは相談に来ている方々ですね。ですので、およそ半数の方々が2回以上相談にいらっしゃっているといったところございまして、一番多い方ですと10回相談に来ていますね。毎月3回から4回の頻度で来ていらっしゃる方もいらっしゃると。

居場所につきましては、居場所を登録者の数で見ると40%がリピーターでござ

ざいまして、一番多い方は32回来ているといったところでして、毎月15～17回ぐらい来ているという方もいらっしゃいます。

一番多いのが40回ですね。40回来ている方は毎月20回ぐらい来てくださっていて、ほぼ毎日のように来てくださっているんですね。中には、IT企業などに勤められていて、コロナ禍でオンライン勤務であって、人と交流ができないといったところで、人と交流がしたくていらっしゃる方であったり、また会社帰りに立ち寄ってくださったり。夜8時まで開いていますので、家に帰っても単身者であるから誰とも話す人がいないので、一旦フラットおおたに来て、話をして帰るといったようなことを日課にされているような方もいらっしゃいます。いろんな方々が、いろんな形でフラットおおたを使ってくさっているところがございます。

以上になります。

○永井座長 ありがとうございます。

つまり、できてまだそれほどたっていないわけですけど、実績は上がっていると思うのです。実績は想像以上に上がっていると思いますが、そこには、たくさんリピーターがもうできているということでもとてもいいことだと思いますが、同時に、やはりこれからは、一方ではリピーターが増えると同時に、広がりをつけていくということと両方課題がありますから、その辺り、今後もう少し細かなデータの分析もできていくでしょうし、また、先ほど公募委員の方からもお話しいただいたような、利用者たちとより世代が近い感覚からすると、少し感じが違うかなというようなご指摘もあるようなので、その辺も含めてどういう形が一番いいのか。

また、私のような70代の立場から言うと、やっぱりこういうことも伝えたいけどなみたいなところも、頑固なところもありますから、若者のニーズというのを大切にしながら、一方ではどういう形で世代間の交流を果たせるんだろうかみたいなことも課題になるのかなという気がします。

ほかの委員はいかがでしょう。

○茨田委員 大田区少年少女団体協議会の茨田尚と申します。

今、いろいろとご報告をいただいて、かなり幅広く成果が目に見えて上がっているのではないかなというふうに感じました。

このフラットおおたは、本当に苦しんでいる人たちからしてみれば、助け船が来たんだということで、中にはいろんな救助を求めている方がいますから、その人たちは

今、リピーターのお話もありましたけど、悩みとか苦しみが解決されると、さらに自分を高めようとか、活力が増してきて、1回だけじゃなくて何回も何回もいろんな相談に乗ってほしいと、くることが多いんじゃないかなと思って、幅広くコンテンツの活動の面が相当増えるんじゃないかなと思います。

そして、この資料にもあるとおり、大田区以外の地域からも参加があるということは、一層広がりが増えていくんじゃないかなと思って、そして、「救われた」「ほっとした」「安心した」という人は、同じように苦しんでいる人たちに、「こういうところがあるよ」「こういうふうになれば何か救われていくんだ」というようなことを広げていただいて、より多くの人たちがこのフラットおおたを活用されて、みんながよい生活が送れるように期待するところでございます。

それと、これは少年少女団体協議会のお話で、一昨日2月19日に、多摩川のせせらぎ公園にある田園調布せせらぎ館で、子ども交歓会を行いました。これはボーイスカウト・ガールスカウト、海洋少年団を主として開催しているんですけど、今回は2学期からいろいろ計画を立てて、その頃と今とではコロナの感染者数の数も異なっていたために、時間を短くして正午からスタートしまして、3時間ぐらいで終了しました。テーマはSDGs、子どもさん、小学生でも分かりやすいように、ごみの問題とか環境保全とか、そんなようなことをゲーム化したプログラムをやりました。

特に海洋少年団もいたもので、海にはこういうようなプラスチックごみがあるとか、釣りをしながらいろんなもの、有害なものがつり上がるんですね。そんなようなゲームをしながら、いろいろと子どもさんたちに環境保護とか、そういった問題について少しでも興味を広めてもらって、それをまた来なかった人たちに学校とかで言い伝えていただければいいのかなと思って開催いたしました。

以上でございます。

○永井座長 どうもありがとうございました。

それでは、いかがでしょうか。何かご発言、お願いいたします。

○秋成委員 大田区議会の秋成でございます。

今回、フラットおおたのお話を伺う中で、実は私、うちの子どもの知人でもあったんですけども、実は15年ぶりぐらいで家に連絡が入り、やはり様々あって、勤めていた会社を辞め、今、家の中にこもっているということでの話だったんですが、是非このフラットおおたをご案内しようと思ってお世話したんですが、やはり本人が相

談に出向くまでいかないという部分でございました。

やはり前回の会議でいただきました名刺サイズのこういったカードを頂いたら、またこれを渡しに行こうとは思いますが、例えばこういった名刺サイズのカードが、イートインの場所、またファミレスや喫茶店等の中で、一人で食べられるような方がそこをご覧になって、QRコードを読んで相談してみようかなというような、区のほうでも何かそういった仕組みを検討いただくと、また相談者も気軽に相談ができるのかなというように思いました。

○永井座長 ありがとうございます。

非常に具体的にご提案いただいたので、検討していただけたらと思います。

それでは、最後に、会長であります区長に、閉会のご挨拶をお願いしたいと思えます。

○松原会長 どうもいろいろご答弁いただきまして、ありがとうございます。

今日はフラットおおたの開所3か月ということでございまして、そのデータを基にお話をいただきました。

本当に子どもさんを囲んでいる状況というのは、本当に複雑・多様化しております。それにコロナが輪をかけまして、いろんな社会問題が起きております。

そういった意味では、子どもさんたちに対して、しっかりと向き合っていくということが非常に大事な時期に来ているのではないかというふうに思っております。

区といたしましても、いろいろ様々な子育て支援をさせていただいておりますが、特に今年予算の中でも子育て支援に一番力を入れて、予算化をさせていただいております。

本当に生まれてきてよかったという、これからの未来に対して明るく希望の持てる、そういう社会をつくっていくことも大事ではないかなというふうに思っております。

本当にいろいろを皆さん方に貴重なご意見をいただきましたことに、心から厚く感謝とご礼を申し上げて、簡単ですが、私からの挨拶にさせていただきます。ありがとうございました。

○永井座長 ありがとうございます。

本日、皆様からいただきましたご意見については、事務局でまとめさせていただきます。

それでは、審議を終了させていただきますが、長い時間、本当にありがとうございます。

ました。

その他、事務局からの連絡事項は何かございますでしょうか。

○佐藤青少年健全育成担当長 それでは、今後の日程のご案内を申し上げます。

令和5年度第1回青少年問題協議会につきましては、令和5年7月頃開催を予定しております。時間など詳細につきましては、後日改めてご通知をさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

○今岡地域力推進部長 本日は大変ありがとうございました。

貴重なご意見をいただきました。私ども、あるいはフラットおおたに対するエールを込めたようなご意見もたくさんいただきましたので、ぜひこれからの施策に生かしていきたいと思っております。

それでは、本日は以上で閉会とさせていただきます。

皆様、誠にありがとうございました。

午後2時50分閉会